

英語学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
英語学基礎特論Ⅱ	統語論と形態論における 諸問題の研究	2	島 越郎	前期 火曜5限
英語学特論Ⅰ	音声学基礎と研究手法Ⅰ	2	渡丸 嘉菜子	前期 火曜2限
英語学特論Ⅲ	音声学基礎と研究手法Ⅱ	2	渡丸 嘉菜子	後期 火曜2限
英語学特論Ⅳ	統語論意味論インター フェイス研究	2	中村 太一	後期 月曜5限
英語学総合演習Ⅲ	英語学の諸問題研究Ⅲ	2	島 越郎、中村 太一	前期 水曜2限
英語学総合演習Ⅳ	英語学の諸問題研究Ⅳ	2	島 越郎、中村 太一	後期 水曜2限
英語学研究演習Ⅲ	統語論と意味論における 諸問題研究Ⅰ	2	中村 太一	前期 月曜5限
英語学研究演習Ⅳ	統語論における諸問題の 研究	2	島 越郎	後期 火曜5限

科目名：英語学基礎特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LM12504, 科目ナンバリング：LGH-LIN602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統語論と形態論における諸問題の研究

2・授業の目的と概要：生成文法における意味論や語用論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今学期は、前年度に引き続き、Daniel Buring (2016) *Intonation and Meaning*, Oxford University Press を精読する。

3. 学習の到達目標：統語論と形態論における最新動向を把握する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Syntactic Framework
- 3) Empty Elements
- 4) Examples (1) : Ellipsis
- 5) Examples (2) : Infinitival [e] in Italian
- 6) Examples (3) : Contextual Restrictions and Double Plurals
- 7) Examples (4) : Allomorphy
- 8) Examples (5) : Insertion of dissociated morphemes
- 9) Against Late Insertion (1)
- 10) Against Late Insertion (2)
- 11) Syncretism (1)
- 12) Syncretism (2)
- 13) Metasyncretism (1)
- 14) Metasyncretism (2)
- 15) Comparison of Theories

5. 成績評価方法：レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

6. 教科書および参考書：Chris Collins and Richard S. Kayne (2023) *Towards a Theory of Morphology as Syntax*

7. 授業時間外学習：担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：英語学特論 I

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：中村 嘉菜子

コード：LM12204, 科目ナンバリング：LGH-LIN603J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：音声学基礎と研究手法 I

2・授業の目的と概要：この授業を通して、受講生は自ら音声学分野での研究を行うための必要な知識と技術を身につける。まず、教科書を用いて音声学の3分野（調音音声学、音響音声学、聴覚音声学）について基礎を学ぶ。その上で実技を行い、音声学の研究手法を身につける。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 音声学の3分野について、研究対象と研究手法を理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。
(2) 音の分類について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。
(3) 音声現象について自らデータの収集・分析を行い、結果の考察できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業方法：講義、実技、議論、受講生による発表

授業内容

本授業は、担当講師による講義と、受講者参加型の活動で構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。各回における教科書の範囲については授業内で指示する。なお、受講生の理解度や興味にもとづいて内容を変更することある。

1. 授業内容の説明、受講生による自己紹介
2. 調音音声学(1) 発声
3. 調音音声学(2) 音の分類
4. 調音音声学(3) 音変化
5. 調音音声学(4) まとめ、ミニレポート
6. 音響音声学 (1) 音の分析 1、Praat の使い方
7. 音響音声学 (2) 音の分析 2、Praat を用いた実技
8. 音響音声学 (3) 音の分析 3、Praat を用いた実技
9. 音響音声学 (4) まとめ、ミニレポート
10. 聴覚音声学 (1) 知覚 1
11. 聴覚音声学 (2) 知覚 2
12. 聴覚音声学 (3) 知覚 3
13. 聴覚音声学 (4) まとめ、ミニレポート
14. これまでのまとめ、受講生による期末レポートの発表 1
15. これまでのまとめ、受講生による期末レポートの発表 2

5. 成績評価方法：1. 授業参加 10%

2. ミニレポート 60%
3. 期末レポートと発表 30 %

6. 教科書および参考書：A Course in Phonetics, 7th ed, Wadsworth Pub. Co.

7. 授業時間外学習：教科書の該当範囲を予習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業内で音声分析用ソフトウェアをダウンロードする。

科目名：英語学特論Ⅲ

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：中村 嘉菜子

コード：LM22205, 科目ナンバリング：LGH-LIN605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：音声学基礎と研究手法 II

2・授業の目的と概要：この授業は、音声学基礎と研究手法 I を受講済みであることを前提として行う。この授業を通して、受講生は音声学分野での研究テーマを自ら設定し、データ収集と分析を行う知識と技術を身につける。授業では、教科書を用いて音声学の基礎知識を確認しつつ、英語（もしくは日本語）で書かれた論文を読む。受講生は、読んだ論文の不足点や発展の可能性について議論を行いながら、それを解決するための適切な研究方法について自分で考える力を養う。

3. 学習の到達目標：(1) 音声学の研究対象と研究手法を理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

(2) 音声学の既存研究を批判的に読み、研究を進展させるために必要なリサーチクエスチョンおよび研究方法を自ら提案できるようになる。

(3) 音声現象について自らデータの収集・分析を行い、結果の考察ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業方法：講義、実技、議論、受講生による発表

本授業は、担当講師による講義と、受講者参加型の活動で構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。各回における教科書の範囲および論文については授業内で指示する。なお、受講生の人数、理解度、興味にもとづいて内容を変更することある（特に第 11 回～第 15 回）。

1. 授業内容の説明、受講生による自己紹介
2. 復習：調音音声学（発声・音の分類・音変化）、論文講読 1-1 リサーチクエスチョンの検討
3. 論文講読 1-2 先行研究の批判的検討（1）
4. 論文講読 1-3 先行研究の批判的検討（2）、まとめ
5. 復習：音響音声学（音の分析、Praat の使い方）、論文講読 2-1 リサーチクエスチョンの検討
6. 論文講読 2-2 先行研究の批判的検討（1）
7. 論文講読 2-3 先行研究の批判的検討（2）、まとめ
8. 復習：聴覚音声学、論文講読 3-1 リサーチクエスチョンの検討
9. 論文講読 3-2 先行研究の批判的検討（1）
10. 論文講読 3-3 先行研究の批判的検討（2）、まとめ
11. 受講生による研究テーマの発表と議論
12. 受講生による論文紹介 1
13. 受講生による論文紹介 2
14. 受講生による期末レポートの発表 1
15. 受講生による期末レポートの発表 2

5. 成績評価方法：1. 授業参加 30%

2. 論文紹介 30%

3. 期末レポートと発表 40 %

6. 教科書および参考書：A Course in Phonetics, 7th ed., Wadsworth Pub. Co.

7. 授業時間外学習：授業であつかう教科書および論文を予習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

授業内で音声分析用ソフトウェアをダウンロードする。

科目名：英語学特論IV

曜日・講時：月曜 5 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LM21502, 科目ナンバリング：LGH-LIN606J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統語論意味論インターフェース研究

2・授業の目的と概要：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

3. 学習の到達目標：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究の動向を把握するとともに、今後の研究に活用する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、担当教員による講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは次の通りである。

1. ガイダンス
2. Ch. 7: The syntactic nature of focus (1) (7.1 - 7.4.1.1)
3. Ch. 7: The syntactic nature of focus (2) (7.4.1.2 - 7.4.2.2)
4. Ch. 7: The syntactic nature of focus (3) (7.4.2.3 - 7.4.3)
5. Ch. 7: The syntactic nature of focus (4) (7.5 - 7.6)
6. Ch. 8: Focus structure and assertion in relative clauses (1) (8.1 - 8.2)
7. Ch. 8: Focus structure and assertion in relative clauses (2) (8.3 - 8.5)
8. Ch. 9: On the status of criterial markers in the left periphery of the clause (1) (9.1 - 9.5)
9. Ch. 9: On the status of criterial markers in the left periphery of the clause (2) (9.6 - 9.10)
10. Ch. 10: Focalization in situ vs. focus projection (1) (10.1 - 10.3.1)
11. Ch. 10: Focalization in situ vs. focus projection (2) (10.3.2 - 10.4)
12. Ch. 10: Focalization in situ vs. focus projection (2) (10.5 - 10.6)
13. Ch. 11: Cartographic "explanations" need explanations themselves (1) (Part I - Part II)
14. Ch. 11: Cartographic "explanations" need explanations themselves (2) (Part III)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表 (30%)，期末レポート (70%)

6. 教科書および参考書：テキスト：

Gallego, Ángel J. and Dennis Ott (2024) Cartography and Explanatory Adequacy, Oxford University Press.

参考書：

原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

7. 授業時間外学習：予習を十分に行う (2 時間)。授業後は論点をまとめるとともに、自分の研究テーマとの関連性について検討を行う (2 時間)。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学総合演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：島 越郎、中村 太一

コード：LM13204, **科目ナンバリング：**LGH-LIN609J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 III

2・授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

3. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 15) Summary

5. 成績評価方法：期末レポート

6. 教科書および参考書：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学総合演習Ⅳ

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：島 越郎、中村 太一

コード：LM23205, **科目ナンバリング：**LGH-LIN610J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 IV

2・授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

3. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

5. 成績評価方法：期末レポート

6. 教科書および参考書：取り上げる論文はクラスルームで前もって通知する。

7. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学研究演習Ⅲ

曜日・講時：月曜 5 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LM11505, 科目ナンバリング：LGH-LIN613J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統語論と意味論における諸問題研究 I

2. 授業の目的と概要：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

3. 学習の到達目標：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究の動向を把握するとともに、今後の研究に活用する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、担当教員による講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは次の通りである。

1. Ch. 1: Introduction (1) (1.1)
2. Ch. 1: Introduction (2) (1.2)
3. Ch. 1: Introduction (3) (1.3 - 1.5)
4. Ch. 2: Complementizers, word order, and a non-cartographic approach to the CP-domain (1) (2.1 - 2.3)
5. Ch. 2: Complementizers, word order, and a non-cartographic approach to the CP-domain (2) (2.4 - 2.6)
6. Ch. 3: A quasi-cartographic approach to Spanish auxiliaries (1) (3.1 - 3.2)
7. Ch. 3: A quasi-cartographic approach to Spanish auxiliaries (2) (3.3 - 3.4)
8. Ch. 4: Externalization and meaningless movement (1) (4.1 - 4.3)
9. Ch. 4: Externalization and meaningless movement (2) (4.4 - 4.5)
10. Ch. 5: Semantic principles of adverbial distribution (1) (5.1 - 5.2.3)
11. Ch. 5: Semantic principles of adverbial distribution (2) (5.2.4 - 5.4)
12. Ch. 6: Wh-distributives in Basque (1) (6.1 - 6.3.1)
13. Ch. 6: Wh-distributives in Basque (2) (6.3.2 - 6.4.3)
14. Ch. 6: Wh-distributives in Basque (3) (6.4.4 - 6.8)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表 (30%)，期末レポート (70%)

6. 教科書および参考書：テキスト：

Gallego, Ángel J. and Dennis Ott (2024) Cartography and Explanatory Adequacy, Oxford University Press.

参考書：

原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

7. 授業時間外学習：予習を十分に行う (2 時間)。授業後は論点をまとめるとともに、自分の研究テーマとの関連性について検討を行う (2 時間)。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学研究演習IV

曜日・講時：火曜 5 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LM22508, 科目ナンバリング：LGH-LIN614J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統語論における諸問題の研究

2. 授業の目的と概要：生成文法における意味論や語用論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。

3. 学習の到達目標：統語論における最新動向を把握する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Background (1)
- 2) Background (2)
- 3) Antisymmetry and movement (1)
- 4) Antisymmetry and movement (2)
- 5) Evidence for antisymmetry (1): General points
- 6) Evidence for antisymmetry (2): Phrases in high(ish) positions
- 7) Evidence for antisymmetry (3): Auxiliaries, verbs and pronominal clitics
- 8) Evidence for antisymmetry (4): Further asymmetries
- 9) Evidence for antisymmetry (5): Sentence-final-ness
- 10) Evidence for antisymmetry (6): Coordination
- 11) Evidence for antisymmetry (7): Pronouns and their antecedents
- 12) Linear order and externalization (1)
- 13) Linear order and externalization (2)
- 14) Linear order and externalization (3)
- 15) Linear order and externalization (4)

5. 成績評価方法：レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

6. 教科書および参考書：Richard S. Kayne, Linear Order in the Language Faculty.

7. 授業時間外学習：担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。